



編集後記

「平成」最後となる『山紫水明』

さて表紙は如何したものかと考えておりました。

今回、平成の御代入つてから発行された『山紫水明』（七七号から三三四号）と周年記念誌の表紙を用いたデザインにさせて頂きました。一点一点は小さくなりましたが、天眼鏡（虫眼鏡）やハズキルーペを駆使して御清覧いただき当時の事を思い出して頂けたら幸いです。

表紙を作製するに当たり、ご多忙の中、十年、二十年以上前の『山紫水明』を探して下さい

諸先輩方、本当にありがとうございます。御蔭をもちまして全ての表紙を掲載することができました。

また誌面では、京都をはじめ全国的に広く活躍をされておられますテノール歌手 大西 貴浩先生に特別寄稿をご依頼致しましたところ、快く引き受けて頂き、改めて感謝いたしております。その他、原稿をお寄せ頂いた皆さまに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

当メンバーでの会報は、残すところあと一回のみとなりました。泣いても笑ってもラスト1号です。ご期待ください！

〈広報委員会〉



『山紫水明』 第136号

題字 頼新先生
編集 広報委員会

発行所 京都府神道青年会
発行日 平成30年11月30日
印刷 株式会社ユニティー

ご挨拶



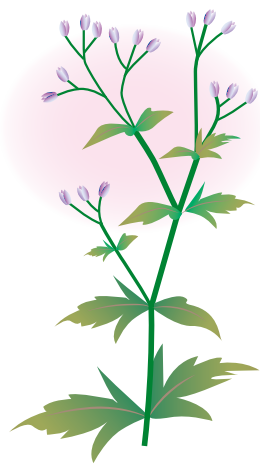
会長 六人部 是充

先ず以て、今上陛下におかせられま
しては御即位三十年の佳節をお迎え
になられ、謹んで聖寿の万歳と皇室の
弥栄をお慶び申し上げます。神宮に
おかれましては、諸祭恙無く執り行わ
れておりますこと誠に慶賀に存じ上
げます。

愈々平成三十一年一月二十六日に「奉祝 天皇陛下御即位三十年 感謝
の誠を捧げる京都府民の集い」が国立京都国際会館で開催されます。この記
念すべき事業に当会といたしましても協力させていただき、国民全体の更な
る皇室敬慕の気運を高め国民あげて感謝と奉祝の誠を捧げるべく展開して
参る所存でございます。

本年は日本各地で地震をはじめ、豪雨、台風、と天災が続きました。被災
された皆様には衷心よりお見舞い申し上げますと共に、被災地域の一日も早
い復興をご祈念申し上げます。

昨年七月から動き出した今期も早一年半が過ぎました。そろそろ次期に
ついても準備をはじめていかなければならない時期となりました。この間、
平成三十年の佳節の奉祝事業として関係神社に奉祝懸垂幕を配布させてい
ただきました。委員会では様々な形で神青活動事業が展開されております。
また広報活動の媒体としてSNS（フェイスブックページ・インスタグラム・



ツイッター）を開設致しました。情報発信の一環として活用し、これまで以上
に当会に興味をもつていただけよう努めて参ります。
皆様にとりましては、この一年は如何でしたでしょうか？
共に集い、共に語らい、時には意見を戦わせながら当会の伝統が育まれて
きたことと存じます。良きことも反省すべきことも夫々の記録と記憶に残つ
ていることと思えます。それらを諸活動に活かし、先輩方のご教示と会員各
位の協力を賜りながら限られた時間の中ではありますが、青年会活動の充
実を目指して参ります。
今期二年目、この六十七年目も、古より伝えられてきた大切なものを守り
つつ次世代を見据えた新たな風を吹かせ、会務運営に最後まで務めて参り
たく存じます。全会員が中、心となつての事業展開がなされることを期待し会
長挨拶と致します。



2対1にてOB先輩が現役を制す

第一三六号 目次

表紙	1
会長挨拶	3
寄稿『歌の奉納から得たもの』	4
定例総会・懇親会報告	7
平成二十九年度活動報告書	8
各委員会報告	10
近畿・中央報告	14
平成三十年度新入会員紹介	21
編集後記	24

歌の奉納から得たもの

テノール歌手 大西貴浩



わたしが歌の奉納を始めてから、四年の月日が経とうとしています。どうして神社で歌の奉納をするようになったのか。それは三十五年前の小学生の時にさかのぼります。

小学校二年生のときに、「風船の旅」というダンスをクラスのみんなで踊りました。そして、そのダンスの最後に手紙を付けた風船をいっせいに空に放ったのです。まさか返事が来るとは思ってもみませんでした。それも実家のある香川県から直線距離にして二百キロ近く離れた熊野本宮大社のある和歌山県本宮町からでしたので、小学一年生のわたしには想像もつかないほど遠い国のように感じました。

「きみが飛ばした風船はわたし達の町の林に引っかかりました。(中略)熊野の山奥ですけど一度遊びに来てくださいね。川湯温泉や湯峯温泉など素晴らしい所がたくさんあります。よろしく さようなら」

この日からわたしの頭の片隅に「熊野」という言葉が常に存在するようになりました。いつか熊野に行きたい。その思いを三十年持ち続けていたある日、それは実現することになったのです。

それから五年の間に、高千穂神社、出雲大社、上賀茂神社、伏見稲荷大社、野々宮神社、大原野神社、金刀比羅宮、樅大神社など計十七社で二十六回の奉納演奏をさせていただきました。奉納演奏では、専門としている日本歌曲(童謡・唱歌も含む)を奉納させていただいています。

元来が神社好きということもあり、あの神社で奉納したい!と強く願えば、あるときふと糸がながる、そんな不思議な経験もしました。飛び込みでお願いをして断られたことも何度もあります。それがある日ふと縁がつながり実現する。そのような状況を目の当たりにしたとき、神様はいつも自分たちのことを見ていらっしやるのだ、と思わずにはいられないのです。奉納演奏を始めてから変わったこと、それは日々の暮らしのなかにより身近に神様を感じるようになったことです。日々のなげない二つの行いの積み重ねが大切だと思えるようになった心、それこそが神様がくださったいちばんの贈り物だと感じます。

コンサートと奉納演奏とどう違うの?という質問がいちばん多く受ける質問です。コンサートのときはお客様に向かつて歌うけれど、奉納演奏のときはお客様にお尻を向けて神様に向かつて歌うんだよ、という皆さんが驚いた顔をします。しかし、それは一つの形式であって、わたしにとって何かもっとも違うかというところ、誰のために歌うかということなのです。コンサ-



父親が定年退職を迎える年、せつかくだから家族でどこかに出かけようという話になり、ぼくは思い立ったように、「熊野に行こう、手紙の主に会いに行こう」と言いました。ふと席を立つた母が戻ってきたかと思うと、その手には封筒が一通。その封筒は三十年前に送られてきた、風船を拾った方からの返信でした。三十年間大切に保管してくれていた母に感謝しつつ、そのお手紙の主、「羽根さん」をインターネットで検索したところ、和歌山の地方紙になんと羽根さんのことを書いた記事がヒットしたのです。翌日にはその新聞社に電話をし、事情をお話ししました。そして先方に確認して連絡先を教えていただいたのです。

早速、羽根さんに連絡をしたところ、羽根さんもそのときのことを覚えてくれました。そして、わたしが声楽家として活動している話をする、その翌月のコンサートには、東京までお越しくださいました。そのとき、神社が好きだから熊野本宮大社にも行ってみたい、近々伺いますというようなお話をしたと記憶しています。

すると、一か月ほどたったある日、羽根さんから連絡がありました。「熊野本宮大社で歌を奉納できるようにしておいたから歌いにおいで」

思ってもみない吉報でした。二つ返事で快諾し、平成二十六年十一月九日、熊野本宮大社において初めて歌を奉納させていただきました。

トのとき、わたしは「自分」というものを表現しようとは思いません。それについての良し悪しは別として、自分の価値観をお客様に押し付けるような音楽はわたしの音楽ではないと個人的には考えています。お客様がそれぞれ持っている思いを引き出せるよう、そして、極めて客観的に独りよがりにならないよう、聞きとれる言葉で歌うということに集中します。あくまで、天と地を結ぶ役割を担っていると自分に言い聞かせます。

しかしながら、音楽を奉納するときだけはわたし自身のために歌います。日々生かされていることへの感謝をこれでもかと歌に込めて歌います。そこには自分と神様しかいません。そして、その瞬間こそが、わたしは生きている、と感じられる瞬間なのです。清浄をとりもどす瞬間でもあります。そして、わたしの生活がリセットされ、また新たな一歩を踏み出すことができるのです。

わたしにとって神社という空間はふと立ち寄ってひと休みできる日常でもあり、音楽を捧げる非日常でもあります。苦しいときにも楽しいときにも、変わらない姿でわたしを迎え入れてくれます。これからも、数千年にわたり日本を見守ってきた「神社」という存在と関わりながら、日本の歌を、そして日本の心を次の世代に歌い継いでいくという使命を果たすべく精進していきたいと思えます。

来年は奉納を初めて五年目を迎えます。そんな節目の年に伊勢



の神宮にて奉納演奏をさせていただく機会を五月に頂きました。熊野本宮大社から始まったわたしの奉納演奏の旅は、四年五か月の歳月をかけて伊勢路を歩き、とうとう神宮にたどり着くのだなど感慨深いものがあります。これから先、わたしはどこに向かうのか。神様に聞いてみたい気分です。



講師紹介

テノール歌手 **大西 貴浩 先生**

香川県出身。上智大学文学部社会学科卒業。平成二十六年、新国立劇場ソリストデビュー。日本歌曲を専門とし、言葉伝えることに重点を置いて「聞き取れる日本語」歌唱には定評がある。藤原歌劇団、日本オペラ協会所属。香川県まんのう町観光大使。現在は京都在住。

今後の公演予定

- 平成三十年十二月八日
アウンザブテイヤ寺院大聖堂落成記念コンサート(ミャンマー)
- 平成三十年十二月 野宮神社奉納演奏(京都)
- 平成三十年二月二日 コンサート(鳥取・智頭宿雪まつり)
- 平成三十一年三月 賀茂御祖神社奉納演奏(京都)
- 平成三十一年三月三十一日
チャリティコンサート(京都平野神社境内 鳥おさ二福茶屋)
- 平成三十一年四月六日 リサیتال(京都京都文化博物館)
- 平成三十年四月二十九日
リサیتال(東京・紀尾井町サロンホール)
- 元年五月十二日 神宮奉納演奏(三重)

定例総会・懇親会報告



平成三十年七月五日、午後六時より、京都センチュリーホテルにて、平成三十年定例総会が会員八十七名参加のもと開催された。

高田副会長より開会の辞が述べられ、神宮遙拝、国家斉唱、敬神生活の綱領唱和、物故者に対し黙祷を捧げ、会長挨拶の後、伏見稲荷大社橋会員が議長に選出され、議事に入った。

先ず、第一号・平成二十九年活動報告、第二号・平成二十九年年度決算報告、第三号・監査報告が行われ一括で審議され承認された。次に第四号・平成三十年活動方針並びに活動計画案、第五号・平成三十年度予算案が上程された。予算案の中で、前回の総会にて会員の中から次年度に繰越金額から年会費を減額してはどうかとの意見があり、一年をかけて執行部・役員にて諮ってきたが、十五年以上同額の会費で運営されてきたが、周年事業に向けた積立や会員数を維持しながら同時に安定した予算確保も維持しつつ次の世代が新たな事業を展開していけるよう会費は本年も今までと同額とする旨、会計局長より説明がなされ、一括で審議され承認された。次に会歌合唱、聖寿万歳の後、高田副会長より閉会の辞が述べられ定例総会は終了した。これを以って六人部会長の二年目、当会の六

十七年目の活動がスタートした。

定例総会に引き続き懇親会が開催された。ご来賓、協賛業者、OB会員・新OB会員の皆様と、現役会員八十五名、併せて百三十三名が出席した。

先ず、開会に先立ちチャマタ基金の贈呈式が行われ、六人部会長から京都府神社庁長田中恆清様に目録が手渡され、当事業の成果が報告された。



次に生寫紀之副会長より開会の辞が述べられ、六人部会長の挨拶が行われた。続いて、ご来賓の方々を紹介させて頂き、代表して、京都府神社庁長田中恆清様よりご祝辞を頂戴した後、京都府氏子青年連合会会長武本延美様による乾杯の発声によって、懇親会がスタートした。

懇親会では、新OBとなられた三木先輩(御香宮神社)と長谷川先輩(八幡宮)を紹介させて頂いた。また、新入会員の紹介では十九



名の新人が自己紹介を行った。続いて親睦委員による余興が行われ、チョビヒゲを付けた親睦委員が、ドリフターズの音楽と共に、無言でヒゲダンスを踊るシュールな内容であった。最後にOB幹事片口先輩による万歳三唱が行われ、閉会の辞を生寫和顕副会長が述べ、盛況の内に終了した。

(北野天満宮 黒木崇史)

年月日	内 容	人数	場 所
一月 二〇日	京都府神社庁「平成三〇年新年神職総会 及〇助成金交付式出席 第六回役員会開催	三名	京都府神社庁
二二日	渉外委員会「ヤチマタ募金活動」開催 (五五・二六・七〇)	一六名	向日神社
二五日	近畿地区「国旗掲揚推進 一・二七御堂筋ハレド」参加	九名	北野天満宮
二七日	第四回執行部会開催	六名	石清水八幡宮
二九日	親睦委員会 第四回委員会開催	六名	サイゼリヤ 京都一乗寺店
三〇日	広報委員会 第三回委員会開催	八名	お好み焼き あらちゃん
三一日	京都府神社庁交通安全推進運動「ヤチマタ募金活動」参加 第七回役員会開催	一六名	吉田神社
八月 八日	平成三〇年新年会(総勢一〇一名)	五九名	ホテルグランヴィア京都
二二日	日本会議「京都・建国記念の日 奉祝京都式典・講演会」出席	二名	ホテルグランヴィア京都
二五日	渉外委員会 第二回委員会開催	六名	京都府神社会館
二七日	親睦委員会 第四回委員会開催 「神職さんと行く伊勢参宮」参加 及〇助成金交付式	六名	情熱色彩 京色
二九日	親睦委員会主催「酒蔵見学会」開催	六名	星月夜
三〇日	神青協「平成一九年度中央研修会」参加 第五回執行部会開催	二名	伊勢市 神宮
三月 一〇日	組織委員会「機関紙「洛声」第一七号発行 及〇助成金交付式	四名	長岡天満宮
一八日	教化委員会 第四回委員会開催	六名	伏見稲荷大社
二二日	親睦委員会主催「酒蔵見学会」開催	二八名	松井酒造株式会社
二七日	神青協「平成一九年度中央研修会」参加 第五回執行部会開催	五名	ハウステンボス(長崎県) 向日神社
三月 二八日	近畿地区 第四回役員会出席	三名	姫路キャッスルグランヴィリオホテル
三〇日	近畿地区 第二回連絡会出席	七名	姫路城・圓教寺
三一日	近畿地区 地区研修会出席	七名	大將軍八幡社
四月 一四日	近畿地区 地区研修会出席	五名	天壇福園四条店
一五日	第八回役員会開催	三名	グランドホテル(倶楽部 奈良県)
一七日	渉外委員会主催「京都府氏子青年連合会との 交流会開催」(総勢一八名)	二名	ホテルグランヴィア京都
二七日	近畿地区「親睦ゴルフコンペ」参加	四名	CEN TRO
二八日	京都府神社総代会総会	七名	石清水八幡宮
四月 四日	組織委員会 第四回委員会開催	七名	マクドナルド北白川店
一〇日	親睦委員会 第五回委員会開催	七名	向日神社
一七日	京都府神社庁「例祭」参加	三名	向日神社
二〇日	第九回役員会開催	三名	神本社庁
二六日	神青協「第七〇回定例総会」出席	一四名	明治記念館
二七日	野球部総会(総勢一八名)		鳥せ

年月日	内 容	人数	場 所
七月 一日	監査会開催	四名	伏見稲荷大社
二日	第四九回京都府氏子青年連合会定期年次大会出席	一名	石清水八幡宮
四日	チャリティ「ハザ」収益金寄託	二名	京都府庁
四日	定例総会直前役員会開催	二名	京都府庁
四日	平成一九年度定例総会開催	七六名	京都東急ホテル
四日	同 懇親会開催(総勢二二八名)	七七名	京都東急ホテル
六日	執行部就任挨拶回り	七名	水明社各位
一〇日	近畿地区「緑・鎮魂錬成研修会」参加	六名	石上神宮
一九日	美しい日本の憲法をつくる京都府民の総参画参加	一〇名	京都ガーテンパレス
二〇日	教化委員会 第二回委員会開催	六名	靖間YASUMA河原町店
二二日	近畿地区 第二回役員会出席	二名	神戸・神仙園
二四日	京都府神社庁 関係団体代表者懇話会出席	一名	京都府神社会館
二四日	組織委員会 第一回委員会開催	五名	I BUKURO
三〇日	第一回執行部会開催	二名	向日神社
三一日	第一回役員会開催	一七名	翠雲苑
八月 六日	教化委員会主催「鎮守の杜お祭り体験」開催 (総勢一八〇名)	二〇名	向日神社
六日	事業委員会 七五三ボスター写真撮影	五名	フォトスタジオマツモト
二二日	神青協 硫黄島訪島事業	一名	硫黄島
二二日	京都府神社庁「とも参宮団」参加	一名	神宮他
二五日	第一回執行部会開催	一〇名	石清水八幡宮
二六日	組織委員会 機関紙「洛声」第二号発行及び発送作業	六名	長岡天満宮
二八日	親睦委員会 第二回委員会開催	六名	とりひめ河原町店
二九日	事業委員会 第二回委員会開催	六名	京都海鮮居酒屋 海鮮
三〇日	京都府神社庁「日本文化セミナー」参加	四名	京都ガーデンパレス
三〇日	神青協「平成一九年度夏期セミナー」参加	四名	神本社庁
九月 一日	広報委員会 第二回委員会開催	一〇名	京の焼肉処 弘
一日	親睦委員会主催「親睦ハイベキュー大会」開催 (総勢五二名)	三三名	京都府神社会館
一日	ヤチマタ広報「ヤチマタ」隊出発式出席	四名	M Kポル上賀茂
二日	皇太子向妃向殿下御米御奉送	八名	京都駅
二日	渉外委員会 第二回委員会開催	六名	賀茂別雷神社
三日	皇太子向妃向殿下御米御奉送	八名	京都駅
四日	近畿地区 第二回役員会出席	二名	湊川神社補公会館
四日	近畿地区 第二回連絡会出席	九名	湊川神社補公会館
一日	第一回役員会開催	一八名	大將軍八幡社
一六日	事業委員会 七五三ボスター発行及び発送作業	九名	伏見稲荷大社

平成一九年度 京都府神道青年会活動報告書

自 平成一九年七月一日
至 平成三十年六月三〇日

年月日	内 容	人数	場 所
九月 一八日	鳥取県神道青年会創立五〇周年記念式典出席	二名	米子全白空ホテル
二〇日	京都府神社庁主催「神道行法錬成研修会」参加	一〇名	賀茂別雷神社
二二日	京都府神社庁主催「第四八回交通安全慰霊祭」助勢	七名	京都西陣織会館
二八日	渉外委員会主催「皇室関連施設清掃奉仕」 ※近畿地区事業(総勢三二名)	四名	京都御所 ホテル平安の森京都
九月 二九日	組織委員会 第二回委員会開催	七名	蛇の目屋
二九日	親睦委員会 第二回委員会開催	六名	鱒
十月 二日	皇太子向妃向殿下御米御奉送	五名	大宮御所・京都駅・二条城
二日	聖寿奉祝の碑 現状視察並びに清掃奉仕	一名	波照間島
二日	皇太子向妃向殿下御米御奉送	五名	京都御所・京都駅・国際会館
三日	教化委員会 第二回委員会開催	八名	伏見稲荷大社
六日	神宮大麻唐頒布始め奉告祭参列	一名	京都府神社会館
六日	第三回神職大会出席	一〇名	京都フライングホテル
七日	第三回執行部会・第二回役員会開催	四四名	向日神社
八日	教化委員会主催研修会 「生き続ける企業を目指して」開催(総勢五八名)	四八名	伏見稲荷大社
二二日	近畿地区「第三回全国戦没英霊追悼奉仕及び参列	三名	若人の広場公園
二二日	京都府神社庁「秋の移り収穫祭ツアー」参加	一名	大原神社
二九日	新役員会合同懇話会	一七名	京もん
十月 二日	教化委員会 第三回委員会開催	六名	黒焼き べっぴんや
二日	事業委員会 平成三〇年カレンダー発行及び発送作業	一八名	伏見稲荷大社
二日	第一回役員会開催	九名	平安神宮
六日	広報委員会 第二回委員会開催	九名	やきとり 鳥あき
八日	京都府氏子青年連合会との役員合同忘年会出席	九名	天壇福園本店
二二日	京都府戦没英霊追悼奉告祭奉仕及び参列	五名	京都ガーデンパレス
二五日	組織委員会 機関紙「洛声」第二号発行及び発送作業	五名	今宮神社
二七日	渉外委員会 第二回委員会開催	八名	龍馬馬丸三条
二七日	親睦委員会 第三回委員会開催	七名	平安神宮
二九日	教化委員会主催「七五三の集い」開催(総勢四〇名)	一〇名	護王神社
二九日	組織委員会・親睦委員会主催 (〇B懇親会)開催(総勢五八名)	四二名	がんと高瀬川二条苑
十一月 一日	近畿地区 第二回役員会出席	二名	生田神社会館
二日	近畿地区 第二回連絡会出席	八名	生田神社会館
二日	神道政連盟京都府本部「沖繩京都の塔慰霊参拝団」参加	一〇名	沖縄県
三日	事業委員会 第一回委員会開催	六名	笑い屋
三日	広報委員会 広報紙「山紫水明」第二三四号 発行及び発送作業	七名	北野天満宮
八日	野球部 忘年会開催(総勢九名)	四名	なか川
九日	京都府神社庁 関係団体懇話会出席	三名	京都府神社庁
九日	第五回役員会開催	一七名	南禅寺 順正
二三日	日本会議「京都 「天長節奉祝 京都式典・講演会」出席	二名	新都ホテル

委員会報告

組織委員会

『洛声』一一九号発行



組織委員会では会員名簿の作製、並びに会員の近況を報告する機関紙『洛声』一一九号を発行いたしました。

『洛声』では、会員の情報共有は然ることながら、各研修会での体験談や神青野球大会でのインタビュー等、会員にとつて親しみやすい紙面となるよう取り組んでいます。それらを通じて、より会員同士の親睦を深め、組織力の強化に繋げていければと考えております。

（伏見稲荷大社 廣達哉）

教化委員会

神職さんと行く神社探訪

夏至を控えた六月十七日、梅雨晴れ薄暑のなか桜の名所と謳われる平安神宮に於いて教化委員会主催による神社探訪が開催された。

近年学都として名を馳せているここ京都に籍を置く大学生を中心とした九名の参加があった。

初めに平安神宮権禰宜である生嶋和顕副会長による案内のもと、正式参拝。その後、大極殿に於いて神社の



由緒や歴史についての説明を聞き入っている様子であった。



記念殿ホールでは中井教化委員長による質疑応答、最後には再び生嶋副会長の案内により神社を拝観。この時期は龍尾壇が工事に入っており大極殿からの素晴らしい風景を見ることができなかつたが、東神苑に於いて京都御所より移築された向美館の特別拝観をさせていただき、参加した学生

は普段羽織ることのない十二単の体験や、数々の調度品に好奇心を隠せない様子で、それぞれが織成す空間の美しさに魅了されたようだ。

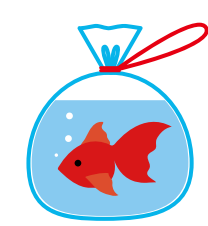
（賀茂別雷神社 神山拓也）

鎮守の杜お祭り体験

教化委員会主催「鎮守の杜お祭り体験」が大石神社に於いて開催された。今年も酷暑が続いていた為、例年より一ヶ月遅い九月八日に行った。

この事業は、子供達を対象に、鎮守の杜で楽しい時間を過ごしてもらい、地元的神社に親しみをもち、日頃から参拝して頂けるきっかけ作りを目的とした事業である。

当日、準備の段階ではあいにくの雨だったが、子供達が集まる頃には、晴れやかな青空が広がった。地元の保育園の児童たちを含め三十名程の子供達が参加。



まず、大石神社ご本殿にて正式参拝。その後、社務所前に特設された屋台にて、スーパードール・水風船・金魚すくいや射的等を各々楽しんだ。また大石神社の神馬と触れ合う場もあり、

事業委員会

七五三ポスター撮影

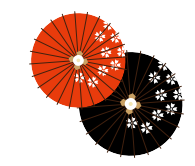
最後に、大石神社様をはじめ、ご協力頂きました関係各位に心よりお礼申し上げます。

（石清水八幡宮 河谷真里）



日頃体験出来ない餌やりなど楽しんでいる様子であった。最後に会員によるパネルアートが披露され、子供達は完成するキャラクターや車などに目を輝かせていた。

今回、子供達の笑顔が溢れる大変充実した事業だった。今日の体験を機に、神社が子供達にとって心の拠り所になれる場所になることを切に願うばかりである。



八月二十四日、事業委員会主催による恒例の七五三ポスターの撮影が行われました。今年のモデルには当会会員のお子様、黒崎鳳雅くん、有島万葉ちゃん、橘重朗くん、西野絢香ちゃんに務めていただきました。